

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野 6243・東京 43341
電話 上田 (2) 1215 (代表) (2) 1218 (直通)

大学院修士課程の設置について

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

I 設置認可のいきさつ

本学部の大学院繊維学研究科修士課程設置の申請が大蔵省の査定を通過、39年度国家予算に計上されたことが旧暦29日文部省から内示された。今次の国会で可決され、別に大学院設置審議会の審査にパスすれば新年度から正式に発足することになる。昨年8月末文部省は全国に27の大学院研究科（修士課程）を設置したい意向（文部省概算要求）を発表したが今回認められたのはこの中の17研究科で、内訳は薬学3、理学2、工学6、農学2、家政学1、水産学1、繊維学1、体育学1である。

本学部大学院の39年度実現はかなり困難な事情にあった。昨年大蔵省の査定でおとされた大学が名古屋工大など5校もあり、多くの大学が数年前から申請を続けてきた事情もあり本学部は3年続けて学科や講座の増設が認められた関係などで、初めて顔を出した当学部は順序からいっても無理であった。しかしすこしく横断的であったと思われる猛運動と、幸にも大学本部や文部省の深い理解と、学部改新时期同盟会長木内四郎、代議士羽田武嗣郎両先生の側面からのご支援もあって、長年の宿願であった大学院が実現したことは（今の時点でこう断言しても差支えないと思う）ご同慶にたえないところで、小生のおぼろげな記憶に誤りないならば、専門学校時代に1～2度大学昇格の声があったようだし、昭和24年の単科大学昇格運動の底流にもこの要望は秘められていたのではないかと思う。

12月29日午後3時文部省の内示を聞いて、直ちにお世話になった各方面のお礼参りをすませ、深更上田に帰ったが、この翌日から正式の「信州大学大学院繊維学研究科設置認可申請書」の作成に悪戦苦闘が初まった。1月16日までに遅怠なく文部省に提出しなければならぬ。冬休みではあるが遠方に旅行中の教官にも帰ってきて貰い、事務局は休みを返上して超勤につぐ超勤、ついに15日厚さ7cmのぼう大な申請書（タイプ印刷）を作りあげた。偶然にもおみそかには繊維工業化学科の女子学生が剣岳で遭難の騒ぎがあり、奇蹟的に生還したが、暮から新年は学部はてんやわんやの騒ぎであった。

以上お世話になり、また健斗していただいた方々に心からあつくおん礼申しあげる。

文部省は大学院設置の適格性の基準をいちおう、大学の歴史と伝統とくに直轄学校としての経歴年数（本学部は50余年）教官陣容とくに学位保持者の数（本学部は39.2、1現在講師以上の教官定員61人のうち農博13、工博11、理博4、医博1、計29人で約半数）、科学研究費の多寡（本学部は信大の中で医学部に次ぐ）、他の学部大学院があるかどうか（信大には医学部に博士課程がある）などにおいて考慮するようであるが、大学院設置審議会は建物、敷地、施設設備、図書、標本など詳細に調べて適格性を判定する。最も力をいれるのは教官資格である。このために教官は学歴職歴とともに、概要を添えた研究論文のリストを書いた個人調査を提

出しなければならない。

1月30日文部省から審議会の教官資格予備審査の結果を内示された。結果は非常によく教授は全員◎、助教授は全員◎と判定された。◎は修士論文研究の指導と講義担当の適格者で普通は教授を対象とする。◎は講義と実験担当の適格者で助教授を対象になる。今回認可になった他の大学ではこの資格審査に相当問題があったそうだが、本学部はきわめてスムーズにパスした。来る2月22日には審議会の委員と専門委員の一行が来学、図書、設備その他の状況をつぶさに調査する筈である。

なお今回認可になる繊維学研究科の内容は別掲「募集要項」の通り、専攻課程は繊維農学、紡織工学、繊維工業化学の3学科だが、来年は共通学科（各学科に共通の専門講座よりなる。講座：応用理学、工業経営学、電気工学）と、学科が完成する繊維機械学科（講座：繊維応用力学、繊維機械学熱及び流体工学、繊維測定機械学、繊維化学機械学）の、また41年度には学科が完成する繊維化学工学科（講座：工業物理化学、単位操作Ⅰ、全Ⅱ、反応工学）の修士課程の設置を申請することになる。

大学院ができた場合の具体的措置については目下文部省で検討中ではっきりしたことはわからないが、まず教官研究費が増額になる。大学院をもたない学科目制の大学に対して、39年度は40%増になる予定。しかも大学院未設の専門学科（本学部では共通学科、繊維機械学科、繊維化学工学科）にも適用されるらしい。39年度の教官研究費は38年度の15%増（学生経費は20%増）となり、それを基準にした40%増である。教官定員はまず不完全講座の完全化が行われる。しかしこれは39年度に予算要求して40年度実現の見込み。大学院学生のための建物増もあるが詳細は今のところ不明である。

因みに今まで存在した3学科の専攻科は大学院設置とともに廃止される。

II 大学院の性格

大学院基準（24.4.12決定、30.6.7改訂）および大学院設置審査基準要項（27.10.11決定、33.10.25改正）によれば、「大学院は、學術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする」。大学院のうち「修士課程は学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って、専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うものとする」。また「博士課程は、独創的研究によって、従来の學術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野に関し研究を指導する能力を養うものとする」とある。したがって学校教育法第52条に明示されている「大学は學術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的および応用能力を展開させることを目的とする」という大学目的の中にあつて、深い学識の取得と研究能力の養成に主眼がおかれている。故に設置審査基準要項の中にも「大学院の課程は、研究者養成のためまえから大学学部の修業年限を

単に延長したようなものであってはならない」とうたわれている。また大学院は別科や専攻科のように特別の技能または特別な事項に制限された学習をするものでもない。学部において一般ならびに専門の教養を積んだ者が、広い視野に立ってさらに学識を深め、専門分野の理論と応用の研究能力を養うことを目的とする。研究能力というと、とかく理論的研究のための能力と考えられがちだが、それは楯の半面であって他の半面には、理論を実地に応用してゆくための能力が当然考えられるべきである。よって「理論と応用の研究能力を養う」とあるのは、この課程においては単に研究者、教授者たるべき能力の養成を目的とするばかりでなく、実社会において指導的役割を果たすために要する能力の養成をも目的としているわけである。

このような目的をもつ修士課程においては、主として理論の面を対象とする教育、理論の面と応用の面を合せて対象とする教育、主として応用の面を対象とする教育等を行いうることになる。各大学はその自主性によってその何れを選ぶこともできるわけだが、本学部の修士課程は、学部の性格や現在の社会的要請を考慮すれば、当然第2のゆき方すなわち理論と応用の面を合せて対象とする教育を目標として進むべきではないかと思う。講義、実験、研究等だいたいこの目標に従ってしくんである。

しかし大学院はその完全な形態においては修士課程と博士課程との2課程を設置すべきであるから、われわれはできるだけ近い将来において、「単に先人の知見を基礎にしてこれを発展させるに足る能力を培えば足る修士課程」の設置で満足するものでなく、「根本資料によって新領域を開拓し、その分野における学的水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与することのできるもの、換言すれば、その分野の全般にわたって従来の学術水準と問題の所在とを知り、自己の研究の地位を自覚するとともに、その分野の研究を指導する能力をも備えたいわゆる学者の養成を目的とする」博士課程の設置が許されるよう、教育陣容の強化、施設設備の充実、教官学生の心構えに力をいたしてゆきたいものだ。

大学院の設置によって外見的にはいちおう大学の“格”が上ったと考える人があるかもしれない。あながち無理ともいえないが、こんなことは問題ではない。昭和24年学制改革によって専門学校は一律的に大学に昇格したが、看板を塗りか

えただけで内容は依然専門学校的东西が多い。新制大学の使命は昔の大学と完全に同じものではないであろうが、大学人の心構えが大学という名前にたいしてふさわしくないことほど情けないものはない。昔の大学や大学院では若い人達が情熱を燃やして先生や同輩と議論をたたかわせながら学の道に精進した。ほほえましい風景であった。アカデミズムといっても昔の大学が象徴された象牙の塔的のものは今は薄らいだであろうが、対象が没価値的のものであっても、あるいは社会の要請に答えるためのものであっても大学にはやはりアカデミックなふんいきが欲しい。大学院の設置が契機となってわれわれの学部がぜひ大学らしい大学に成長することを心から念願したい。

次に通俗的な面にすこしくふれておきたい。この頃大学卒業生の学力が低下したという声をよく聞く。戦後の学制は6334合計16年で、昔の6533制より1年短いということ、時代風潮が強く働いているためであろう。戦後の教育のよい面は自由に物を考え、自由に意見が発表できる所があると私は思っているが、それにもかかわらずこの頃の大学生は一部の例外を除いて深くものを考える面と努力する面に欠けていると思う。昔の教育をうけた官庁や会社の首脳部が今の大学を昔の大学と混同していることもあるが、しかし大学が最終の勉学課程であるとするれば、その卒業生が実力不足では困る。とくに国内国外と激しい競争裡にある会社としては痛切な実感であろう。今年は大学卒業生の入社試験を大学院修士卒のレベルで行った会社もあるし(工学系大学の卒業生が激増してゆく今日この傾向はますます強くなる)、多くの会社では修士卒と学部卒の初任給をはっきり区別しているしまた入社後成績優秀なものではできるだけ修士課程に入学させて将来の幹部養成にそなえる会社もふえてきた。会社の云い分としては修士を卒えて初めて昔の大学卒業生と実力レベルが一致するという。

大学などでも全様で、やはり広く深い基盤の上になつて専門の学門をしたものを教官資格とすべきだということが、国立大学工学部長会議でも一致した意見で、このためには大学院コースの学生を全額国費で養成せよという要望が文部省にも伝えられ、育英会もこのために大学院学生の奨学金をかなり増額している。

(39.2.2稿)

総合建設工事一式

土木建築アスファルト舗装 設計施工
上下水道衛生設備工事

長野県上田市大字常入682

株式会社 **宮 下 組**

TEL (上田) (2)0271.2071.4034



オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美

昭和39年度信州大学大学院
繊維学研究科(修士課程)学生募集要項

長野県上田市常入500 信州大学繊維学部内 信州大学大学院繊維学研究科

1. 出 願 資 格

- (1) 大学を卒業した者。
- (2) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
 - (イ) 旧大学令による大学を卒業した者。
 - (ロ) 旧高等師範学校規程による高等師範学校専攻科を卒業した者。
 - (ハ) 旧師範学校令による高等師範学校または女子高等師範学校の修業年限1年以上の研究科を修了した者。
 - (ニ) 旧中等学校令による中学校もしくは高等女学校を卒業した者または旧専門学校入学資格検定規程によりこれと同等以上の学力を有する者と検定された者を入学資格とする旧専門学校令による専門学校(以下専門学校という)で、修業年限5年以上(予科の修業年限を含む。以下同じ。)の専門学校を卒業した者または修業年限4年以上の専門学校に置かれる修業年限1年以上の研究科を修了した者。
 - (ホ) 防衛庁設置法(昭和29年法律第164号)による防衛大学校を卒業した者。
 - (ヘ) 農林省設置法(昭和24年法律第153号)による水産大学校を卒業した者。(旧水産庁設置法(昭和23年法律第78号)による水産講習所を卒業した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。

2. 専攻別募集人員および学力試験科目

専攻課程名	募集人員	学 力 試 験 科 目	
		外 国 語	そ の 他 の 科 目
繊維農学	12名	英語 ドイツ語 フランス語 のうちから1科目選択 計2科目	生物学一般、化学一般、遺伝学、植物生理学、動物生理学、微生物学のうちから2科目選択
紡織工学	10名		一般物理学、繊維工学、機械工学、計測工学、高分子化学のうちから2科目選択
繊維工業化学	10名		基礎化学、物理化学、工業化学、高分子化学、繊維化学のうちから2科目選択

(備考) ドイツ語、フランス語については辞書を持参してもさしつかえない。

3. 出 願 期 日

昭和39年4月15日(水)～30日(木)

4. 出 願 手 続

出願しようとする者は下記の書類を一括取り揃え入学検定料1,500円を添えて出願期日中に繊維学部教務係に提出すること。ただし郵送分については4月30日(木)付の消印あるものは有効とする。郵送は書留とし、封筒には大学院入学志願書在中と朱書する。

なお入学検定料を郵送するとき、小切手、普通為替等の受取人指定を記入する場合には、信州大学繊維学部とすること。

出 願 書 類	注 意 事 項
入 学 願 書	用紙は本学部で交付する。
調 査 書	用紙は本学部で交付する。出身大学の学長または学部長が作成のうえ、厳封すること。(調査書が提出できない事情のある場合には成績証明書をもってこれに代えることができる。)
卒業(見込)証明書	出身大学の学長または学部長が作成のうえ調査書と同封する。
写 真	脱帽、半身像、大きさは名刺判(6cm×4.5cm)縦型(出願期日前3か月以内に撮影のもの。)
健 康 診 断 書	用紙および同封筒は本学部で交付する。健康診断書は出願期日前3か月以内に国・公・私立大学付属病院、国・都・道・府・県立病院、日赤病院、保健所または結核予防会付嘱診療施設に出頭し、本学部からの交付の用紙および封筒を提出し、検査を受けること。

④ 出願者はその学力を表わす論文、報告書または教官の推薦書等の資料を願書に添えて提出してもよい。

⑤ 出願書類用紙の郵送を希望する者は住所氏名を記入した封筒(10円切手をはる)を添えて本学部教務係に請求すること。

5. 入 学 者 選 抜 方 法

入学者の選抜は学力検査、面接、健康診断および出身大学長(出身学部長)から提出された調査書により判定する。

6. 試験科目、日時および場所

(1) 学力試験等日時

科目名	期 日	時 間	所要時間
外国語	5月7日 (木)	午前9時～11時	2時間
その他の科目		午後0時30分～3時30分	3時間
面 接		午後4時～	

(2) 学力試験および面接の場所は繊維学部構内とする。

7. 入 学 許 可 者 発 表

昭和39年5月15日までに発表する予定。入学許可者には郵便で通知する。

8. 注 意 事 項

- (1) 試験場等については前日までに繊維学部構内正門脇の掲示板に掲示する。
- (2) 受験の際は受験票を必ず携行すること。
- (3) 出願手続き後の提出書類について内容の変更は認めない。
- (4) いったん納付した検定料はどのような理由があっても返さない。
- (5) 官、公庁または会社等に在職しているものは、入学手続の際その長または代表者の就学承認書を必要とするからあらかじめ用意しておくこと。

(6) 色覚異常のものは繊維工業化学を専攻することができない。繊維農学および紡織工学を専攻するものは紅緑色弱程度まではよい。

信州大学大学院繊維研究科修士課程案内

繊維農学専攻

講座の名称	授 業 科 目	単位
養 蚕 学	養蚕学特論	2
	蚕体生理生態学	2
蚕種学及び遺 伝 学	蚕種学特論	2
	家蚕育種学	2
	生理遺伝学	2
栽桑学及び土 壤学・肥科学	栽桑学特論	2
	土壌学・肥科学特論	2
微生物学及び病 理 学	微生物学特論	2
	植物病理学特論	2
	蚕体病理学特論	2
応用植物学	植物生理生態学特論	2
	作物学特論	2
応用動物学	動物生理生態学特論	2
	動物繁殖学	2
	繊維農学演習	28
	繊維農学特別実験	56

紡織工学専攻

講座の名称	授 業 科 目	単位
繊維原料学	澗糸学特論	2
	製糸学特論	2
繊維機械学 一	繊維機械学特論	2
	紡績学特論	2
繊維機械学 二	機械学特論	2
	編組学特論	2
繊維物理学	繊維物理学特論	2
	高分子物性論特論	2
計 測 学	繊維材料力学特論	2
	繊維計測学特論	2
	繊維工学演習	20
	繊維工学特別実験	40

繊維工業化学専攻

講座の名称	授 業 科 目	単位
物 理 化 学	コロイド化学特論	2
	有機構造化学	2
有機合成化学	高分子合成化学特論	2
	染料合成化学特論	2
高 分 子 化 学	高分子化学特論	2
	生物化学特論	2
化学繊維学	合成繊維紡糸特論	2
	化学繊維学特論	2
色 染 加 工 学	色染化学特論	2
	繊維化学特論	2
	繊維工業化学演習	20
	繊維工業化学特別実験	40

備 考

講義は12単位以上、演習は2単位以上、特別実験は16単位以上、計30単位以上修得しなければならない。表中の演習および特別実験の単位数は各講義と関連しておこなう演習2単位、特別実験4単位ずつの合計である。

入学後、場合によっては学部の授業科目の一部を指定して履修させることがある。

卒 業 後 の 資 格

本大学院繊維学研究科に2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、さらに学位論文を提出し、かつ

最終試験に合格した者には修士の学位が授与される。繊維農学専攻は農学修士、紡織工学専攻および繊維工業化学専攻は工学修士とする。

奨 学 金

日本育英会から学資の貸与を受ける学徒を奨学生といい、貸与される学資を奨学金という。奨学金の貸与を志望するものは、日本育英会法にもとづいて定められた日本育英会奨学規程等により、選考のうえ奨学生に採用される。大学院奨学生 月額10,000円 修士課程2か年

受 験 生 の 宿 舎

上田市内の旅館にあっせんするから希望者は出願と同時に申し込むこと。

入 学 手 続

入学手続に必要なものは下記のとおりである。

1 戸籍抄本

2 授業料その他

入学科 1,500円

授業料 9,000円(年間18,000円)

備 考

①本募集要項は今期国会で議決のうえ正式になることを申し添えます。

②上掲「募集要項」のうちに39年度修士課程の願書提出期日は4月15日から30日、入学者選抜試験は5月7日となっているが、これは本年の特別事情によるもので、40年度の入学からは願書の受付は昭和39年9月1日から9月15日まで、選抜試験は9月20日から10月10日までの間に行う。

島津科学機械・理科学機械
新興ストレンメーター・東海電気炉
日立電動工具・日立家庭電機器具

川上科学キカイ店(有)

川 上 保 人(学化1回卒)

上 田 市 上 常 田
TEL 上田(2) - 2321


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野3523が一歩ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

林 貞 三 先 生 ご 逝 去

信州大学名誉教授前母校学部長本会顧問林貞三先生には昨冬来ご病氣癩囊中でありましたが、最善の治療も、ご家族のお手厚い看護も、その効なく遂に1月23日午後7時17分ご逝去されました。哀悼の極み謹んで冥福をお祈り申し上げます。葬儀は1月28日午後2時より日本基督教団上田新参町教会において、葬儀委員長小泉学部長、副委員長萩原理事長により若柳牧師司式厳粛に行われた。友人代表蒲生俊興氏から故林先生歴略を述べられた、弔詞は三村信州大学長、小泉学部長、日本蚕糸学会会長横山忠雄氏、本会を代表して萩原理事長、学友を代表して高木三治氏より弔詞が申し上げます。献花は遺族の他各団体代表者がおこなった。ご会葬焼香された各界の名士、知人子弟は県内外から1,200余名におよび、弔電は400余通に達した。先生の多年繊維業界、大学教育に貢献されたご功績にふさわしく厳粛に行われた。

なお2月18日閣議において故林貞三氏、生前学会に大学教育に尽された功績により余榮香しく従三位勳三等に叙せられ瑞宝章授与が決定された。



世間からも由緒ある名前が忘れられた概がありました。先生はこの状態を遺憾とせられ学部の運営を技術革新の時勢に適應するよう抜本的に改造することを提唱せられ鏡意その立案計画にあたられました。今日学部が機構の全面改組や学科や講座の増設、高分子研究部の設立など一連の改革発展の道を進むようになったのは実に先生のご発意のお蔭であります。33年度から大学院修士課程の認可になったことを先生はご病床にあって殊の外喜びになったと承りましたが、この萌芽は先生のお育ての賜であります。この外先生は学外にあっては千曲会理事長、上田中学校同窓会長、上田市在郷軍人会会長など数々の重職につかれ社会に尽されご功績も枚挙にいとまありません。

林先生、先生がこの世に残されたご足跡は偉大でありました。いわゆる生き甲斐のある一生でした。学校をやめられてから先生は菊作りなど自適の生活を送られました。晩年には神の道にも発心せられ病床で洗礼をうけられました。内面生活を顧みることの不可能であった多事の生活から解放され、ようやく思索の道に入られた先生のこしは私どもよくわかります。いつかは親しいものどもが先生を囲み静かに酒をくみかわしてお話しを聞くこともありえたであらうが今はそれもかないません。

林先生のご霊よ神のみ許にあってどうか安らかに永遠の道をお歩き下さい。今はこれが私ども先生に申し上げる唯一の言葉であります。

昭和39年1月28日

信州大学繊維学部長 小泉 清明

弔 辞

謹んで故林貞三先生在天の靈に申し上げます。

旧臘初旬先生ご病氣にて松本の信大病院に入院なさって以来私どもはご快癒の1日も早からんことを希念しておりましたがご家族や主治医の懸命な看護にもかかわらずご病状は思わしくなく遂に1月23日午後7時17分永眠の途につかれました。平素から人一倍ご丈夫におみうけた先生が古稀の齡も待たれずにこの世を去られるとは誰が想像したてでありましょう。今私どもは再び先生の温顔に接することができなくなりました。誠に痛惜の念にたえません。私ども今ここに先生とお別れするに際し改めて先生のご生涯をふりかえてみたいと存じます。学者としての先生は上田蚕専在学中学まれた製糸学のご研究を40年の長きに亘ってしとして続けられました。発表された原著論文は47篇の多数に上り、原料繭の処理、繭糸、生糸、絹の物理学的諸性状、繰糸機械や繰糸方法など製糸の各般の部門にわたり、就中繰糸張力の研究には最も力をつくされました。ご研究はいつも理論と実用性において高く評価され、学界及び業界への貢献はきわめて大きいのであります。先生が日本蚕糸学会の副会長、日本繊維機械学会の評議員、さらに日本学術会議の会員に選ばれ、学会一方の重鎮と仰がれたのも故なしといたしません。

教育者としての先生は学校にあって製糸学の講義を担当されたのでありますが長い経験を通じての授業は学生にとって親味あるものであり門下からは多数有能な専門家が輩出いたしました。また補導にも力を注がれ卒業後も就職あるいは1身上の問題について先生のお世話になったものは数えきれません。先生は大学にあって行政面にも卓越した手腕をふるわれました。製糸学科の学科主任、学部の各種委員、信大の評議員また33年8月から35年3月まで学部長として大学経営に尽されたご功績は忘れることが出来ません。ここに特に申し上げて感謝いたさねばならないことは、先生が繊維学部の改組運動の火ぶたをきられたことであります。繊維学部は昭和24年の学制改革にあたり単科昇格の激しい運動を展開いたしましたが、どうしたことかその後の10年は学部の空気が沈滞し

弔 辞

旧臘14日出動したところが信大松本病院から電話があり、林先生が手術をされた手術は成功したが、経過がよくないと連絡がありました。全く寝耳に水で学部長代理の野口先生と同行して、どるものもとりあえずかけつけたのであります。

室外には奥様を始め家族様方がおられ、事情を聞き先生の病気が容易でないことを始めて知ったのであります。

日頃からご丈夫な先生があのような病気になるうとは、真実とは思えず全く夢のようでありました。その後先生方の適切な処置と、ご家族様の寝食を忘れての懸命なご看護により次第に落ちついてきたと聞き、愁眉をひらいたのであります。安心しながらも先生のご快癒再起を祈りつづけたのであります。

しかし日頃強健な先生の肉体をもっている、難病には勝てず遂に去る23日午後7時、ご家族様のお手厚い看護の効もなく再起の望みは消え、幽明境をことにし永遠の眠りについてしまったのであります。今後永く永く生きていたかねばならない大事な先生の予期しないご逝去にあい、ご家族様の御悲嘆は如何ばかりとご推察申し上げます。

また吾々教え子達も悲しみに打ちひしがれ、この報せをうけた全国の教え子達はどんなに悲しんでいることでしょう。

私が最後に先生のお声に接したのは、昨年千曲会総会の時でありました。その折先生の御様子には日頃と少しも変わったところは見えず、後から見た記念写真のお姿にも少しも変りは見えないのであります。先生は懇親会の席上で私の肩をたたき、「学部は今、非常に重大な発展途上にあるのだ、千

曲会は一致団結して学部の改新計画の達成に協力してくれよ。」としんみり訓されたものであります。これが先生から聞いた最後のお言葉でありました。今にして思えばその時すでに何かを感じておりながら、吾々を心配させまいとの心づかいから平常をよそおっていたのではないかと思います。

そしてこの言葉こそ先生のお声として永く永く記憶にのこることでありましょう。先生は大正9年年年若くして母校の教官となり、その当時から研究に、学生の就職に力をそそがれたのであります。研究においては吾々助手達を督励して、当時全く未知の分野であった繰糸張力の研究にとり組み、これを完成して現在の繰糸理論を確立したのであります。この研究こそ今日の製糸業界に技術的革新をもたらした自動繰糸法の原動力となったのであり、近代製糸業に貢献したその功績は吾が国の製糸業史に永遠に銘記されるものであります。

その他製糸学への科学的管理法の導入、特殊糸条斑の研究繰糸中の糸質変化の研究、ラウジネスの研究などを始め数々の研究は枚挙にいとまがありません。

また教え子の就職については常に慈父の心をもってあたられ奉職してから退官されるまでの、40年間、二千余人の青年の世話をし、製糸学科においては文字通り、恩師として、また慈父として敬愛されたものであります。また卒業後も人生行路の良き相談相手として、何時も暖かく相談にのってくれたことは吾々教え子達の衷心から感謝しているところでありました。

また学部長となられた先生は、学部の将来を考え、新しい業界の情勢を遠視され学部の改新を計画され、スタートをきり、そのバトンは現学部長に引きつがれたのであります。今学部は学部長を中軸として、教職員団結し、この計画は着々と実現されつつあるのであります。先生は永く永く生きられたい自ら蒔いたこの改新発展の姿を見届けたかったことと思

ます。

また社会的にも各種の要職につかれたのであります。日本学術会議員になられた時は新制大学の地位向上のため奔走され、また蚕糸学会の評議員、理事または、副会長を歴任して学会につくされた功績も極めて大きいのであります。

その他業界においても数々の顧問的要職について活躍されたことは数え切れないのであります。

このような繁多な日常の間に先生には千曲会の理事としてまた理事長として会の発展に、また、母校の発展のために尽力されたのであります。このように先生は在職40年の間文字通り寸時も休む時なく、世のため人のため全力をつくしてご苦労をされて来たのであります。

先年退職され、ようやく自分の時間をもたれ、悠々自適、晴耕雨読の生活に入られ、これからご自分の趣味に生きようとしていた矢先の急逝は、先生の人生にあまりにもすげなく御苦労のみ多かったことに対して何の言うべき言葉も見出せません。しかし牧師様のお言葉のとおり先生にはいよいよ神に召され昇天されたのであります。これからは神のみもとにおいて平和にして安らかな時を過されることと思ひます。

先生どうか安らかにお眠り下さい。吾々同窓生は先生の急逝に会い恰も暗夜に灯を失った思いであります。吾々は先生に先生の教え訓された心を心として今後努力して行きたいと思ひます。先生どうか母校の発展のため、また千曲会の発展のためご加護をおあたえ下さい。

先生どうか安らかにお眠り下さい。

以上卒業生を代表し、つたなき言葉を捧げ先生のご冥福をお祈りし弔辞と致します。

昭和39年1月28日

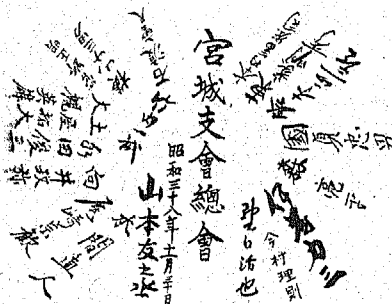
社団法人千曲会理事長 萩原 清治

支会だより

宮城支会だより

宮城支会総会

昭和38年度の晩秋蚕も終了し暇間をみだし11月30日仙台市内みづほ荘にて総会を開催した。



出席者は20名で、先づ向井支会長(蚕10)のあいさつに続き11月23日に本部で開備された代議員会の様子を野口活也氏(蚕13)より詳細に報告がなされた。

次に自己紹介も行い、続いて会食に移る一同和気あいあいのうちに歓談し母校のこと、恩師のこと、旧友のことなど昔をしのび楽しい1日をすごし夕刻再会を約して散会した。

特に大先輩である本間直人氏(蚕1)も何時もながらニコニコ顔で出席されていたので印象的であった。

山形支会総会

年の暮もおし迫った師走の21日、山形の日抜通りはクリスマスを前にそれも土曜日とあってジングルベルの音楽が市中に流れ、あわたたしい人波が溢れていた。

すでにシーズンに入ったスキーと樹氷のメッカ蔵王、平野はまだ雪はない、山のいただきのみか白いものに覆われている。この季節にしては珍らしく晴れた日であった。奥羽山脈が東北を縦断して裏と表と完全に二分し、裏日本はともかくグレーの重苦しい空合の下で過す日が長いのである。何時やってくるか分からない雪ではあるが、1日でもこんな日が喜ばしい。

市内阿古那荘に参集したメンバーは今回も余り変りばえがしなかったが、栗原支会長の司会で総会は開かれ、母校復興資金募集の経過報告を中心に進められた。母校には日頃御無沙汰している人が多く物心両面の協力を心に持ち乍らも現実には仲々きびしい。

今回特に旧職員志賀先生が公職御多忙のところお出で頂いたことは出席者一同感謝した次第です。出席率の悪いのは大変残念であったが、人それぞれの都合もあるかと思われるが、今回は多数の出席を心から切望する。

懇親忘年会は時と共に母校や上田附近の当時の抒情にひたり、先輩、同僚、後輩の動静に及び思い出を語り合った。先輩は宴の中でも蚕の数が少く若い者達だけが気炎をあげたのであるが、些か心淋しくもあり亦先輩の御自愛を祈った。

旧懐の情を温め母校の発展と支会員の愈々の親睦を計ることをお互の心で確認し合い乍ら夕方になってくずれた空から冷たい雨が降り出し街のネオンの輝きの中に各々の家路へと散会したのである。

出席者 栗原章支会長、井上貞二、高藤幸雄、前田雅弘、布施喜一郎、滝沢寛三の各氏に小生。(石川光也記)

千曲会愛媛支会総会

会員現在数34名である、卒業年次別に分けると大正時代の卒業生が30%、昭和の戦前の卒業生44%、戦後の方が26%である、第1線で活躍している方は約60%で化纖工場関係に多に。

支会の活動も広地域でなかなか思うように出来ない、鉄道の通っている所は海岸線で約225 K汽車で7時間程かかる、それに段々畑の多い急傾斜の山地帯であるから交通の便も悪いので、総会の集りもよくない。

今年は時期的に開催が遅れ12月になったので、種々多忙になり集りを心配して

いたが、母校より荻原理事長が御出席になることになった為、今までにない多数の集りで第1線活動者の50%の集りであった。

会場は例年の様に、宮崎先輩の非常なる御厚意によって松山道後の宝荘にて12月1日(日曜)午後3時より開催した、松山は観光都市として、諸種の設備が行なわれているが、まだ充分ではない、宝荘は観光都市計画の1つ近代設備の旅館として、第一番に出来たもので、今では年代的美しさも備り、見晴のよい高台地にあり、若い娘さんの訓練もよく行き届き、気持ち良さサービスは一般客の旅情をなぐさめ印象深き松山の思い出を残す旅館であろう。

総会は時間を待ち合せの間にそれぞれ温泉に入り、湯上りに着かえて始める、最初に荻原理事長より、母校の現状、千曲会の状態等について詳細な御話があった、時報にて知ることの出来ることでもこの様に母校より御出席された方により御聞きすることは、思い出も新になり母校に対するなつかしさ、愛情も一段と深まるような気がする、千曲の運営には苦勞をせられ今度は取入のある事業を計画されて居られる由である、又火災による本館焼失を機に新時代に即応した設備が出来て、旧館の焼失は古い卒業生に1種の淋しさを感じさせるものだと思っていたが、この不幸を転機として近代化された設備が急足に備いつつあることを知ってうれしかった。

協議事項としては(1)母校火災復興資金の募集報告、9名で27,000円である、50周年記念事業資金の際は目標額を達成したが、今回はその直後であった為に、目標を達成することが出来なかった、(2)千曲会費納入については、規程の変更があり、40回納入者は以後の会費を免除するようになっているので、未納の方は納めて頂くように、個人毎の未納金額及び、現在までの納入回数を調べ今後会費納入の向上を図るようにする。(3)役員改選では新会員も多くなったことであり、若い方の選出を願ったが、意見がまとまらず又相当時間を取る様子であったので、懇親会の時間の短縮が気になり、早く結論を出すため、前回通りとし新に副会長を若い方にして頂き、支会の運営を活発にしようと、河辺さんをお願いすることとして、協議事項を終り懇親会に移る。

出席者

荻原清治理事長は丁度中国、四国地区の蕪検定所の会議に御出席され、県内の工場診断の為2~3の工場を見られて御帰校の日を延して頂き、総会を開催したのであったが、御疲れの処大変御迷惑をお掛け致しました。松山駅に

お迎えした時は、30年前の御顔を色々想像していたのですが、全く違ってわからなかった。然し県庁のE氏が県内の工場案内の為同行されていたので見失うことはなかった。松山市内を観光コースに従って一巡する。タバコは全然やられない。酒の方もあまりお強くないようである。

宮崎清治(大10・蚕)

近年健康の方も勝れ、若返りの秘伝を実行されているのやも知れぬ、例により多種多様な体験に基く談話は、会の雰囲気なごやかにし又有益な話であることは、不思議な独特の技術である。観光都市松山のために自ら旅館を経営すると共に、組合のために御努力されて居られる。総会のためその会合のため、諸種の電話連絡があつて忙しい様子であった。



向って右より前列 浅沼製梁男、工藤見吉、荻原清治、宮崎清治、後列 細田博正、菊川武、須沢保夫、薬師神弁太郎、益淵誠正、成尾喜八郎、浅沼製梁男(昭9・紡)

東京から最近愛媛の帝人(松山)工場長として赴任されたばかりである。御家庭の事情で単身赴任されて居られるが、化繊景気で工場の運営も大変なことと思われるが学生時代スポーツマンとして鍛えられた体に御研究も実り今や日本の化繊研究者として新時代を推進されている。総会の前にも母校の学生のために講演されて来られた由を荻原理事長より御聞きしたが、松山工場長だけでなく日本のための活動を要請されている。愛媛支会のためにも当日大変な御配慮を願ったことを紙上をかり御礼申し上げる次第である。

益淵誠正(昭9・糸)

今年4月愛媛に来られた、松山の農林省統計事務所で統計調査官として活躍されている。学生時代より山男とし有名をとどろかせ卒業後は、日本せましと大陸に渡り活躍されたが、敗戦のため止むなく帰国し現在は方向転換、学生時代最もきらいであった数学と毎日暮していると話して居られたが、豊富な体験に基く大いなる活躍が期待されている。

薬師神弁太郎(昭10・糸)

御家庭の事情で宇和島から大洲まで1時間余りの汽車通勤である。蕪検定所から蚕業取締役所長になられてから数年になり、取締事務を通じて愛媛蚕糸界推進の為努力されている。愛媛の蚕種が優良種として県外にまで配布されていることは、一つには蚕業取締所のよき指導による結果と思われる。

成尾喜八郎(昭6・糸)

酒六工場に入られてからは、ほとんど外に出られないのではなからうか、近くに居てもめつたにお会い出来ない今回は何年振りかの事であった。白髪が多くなったように思われたが益々壮健、本社の製糸技術の改善に努力され早くから自動繰糸機の設備を充実され今や県内一の製糸工場として実績をあげられている。飲ば学生時代のように九州男子の元気が出そうだが、汽車時間の関係で早く出発された。

菊川武(昭30・学化)

今年東洋レーヨン松前(マサキ)工場に転任されて来られたが、松山の地理には精通されているようだ。二次会には市内裏町の混雑した路を案内してくれる、現代青年らしく、楽しそうにダンスをされていたが、特に親しい女性である様に先輩のものには見えるがダンスの出来るものはだれとでも親しくなるというのが若い人だと思った。

細田博正(昭33・学紡)

この2ヶ年の間に急に人相が変られたようだ学生気質がかくれ、社会人としての体験が外に現れて来た結果だと思う。先輩の多い、東洋レーヨンで一層の御活躍を祈る。

河辺謙(昭26・紡)

松前工場で中堅として活躍して居られる。昨年の総会に始めて御出席されたが、当日は一番若かったと、話して居られたが職場では大先輩の部に入ることと思われる。当日も忘年会の幹事役で準備のため時間を気にされていたが、新設の副会長の役もお願いすることにしたので、今後は支会のためにも御努力を願う次第である。

須沢保夫(昭29・学糸)

酒六神山工場(製糸)の現場責任者として活躍されている。奥様を隣りの大州から迎えられて、愛媛の人になってしまった。富田犬先輩の後に成尾先輩と同じ社にて勤務し、蕪価高による工場経営もそのしわざは現場に来るものと思われるが、若さで難関を突破されるよう一層の活躍を祈る。

工藤見吉(昭5・蚕)

試験場も10年になるが、担当が度々

変り、経営係、試験係、栽桑係と変り4月から養蚕係となり、蚕と暮している。最近の試験は農業構造改善に関する項目を選定するように試験方向が制約されて来た。飼育中は俗界を離れ気持で居られることが外面に現れない性格の仕事であるが楽しいことである。当日出席出来なかった方の消息

岩本市郎 (大3・蚕) 毎年出席されて、今年も出席の返信を頂いていたのだが、当日急用が出来て電報にて欠席の通知を受く。

内川 勇 (大15・蚕) 総会にはいつも出席されているが、今年も時期的に多忙な時期となった為徳島への御出張が予定されていて欠席された。

河淵益美 (昭6・蚕) 総会皆勤者であるが、高等学校実科教育予算関係で会議が多く、総会直前にも松山に2日程滞在されて居られた由だったが、当日は大分へ出張されて欠席する。

大政安一 (大14・蚕) 総会開催の御知らせに、御孫さんより2年前に御他界の御知らせを頂き驚いた次第である。松山の近くに居られるので一度お会い致したいと思っていたのに残念である。御冥福を祈る次第である。

波多野千里 (大3・蚕) 松山に御在住である。最近健康を害されて長らく日赤病院に御入院されているが1日も早く健康を回復されて御出席の出来る日を待つ。

三好弥市 (大10・糸) 御郷里の町の農地委員として活躍御多忙の様子、今年新産業地区として、国の指定を受けられたので、その中心地区となり一層多忙となることと思われる。

清米邦穂 (昭37・学化) 西条の倉網に勤務、倉網の西条かと云はれるほど、西条地方における倉網工場の存在は、地方開発の為に大きな力をもっている。一層の御活躍を祈る

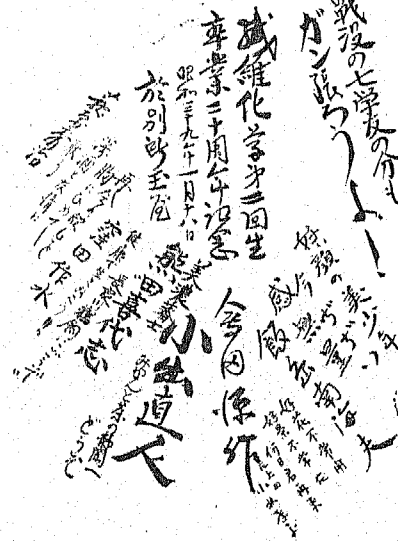
中村孟夫 (昭26・糸) 蘭検定所勤務、蘭検定成績の取り纏めに苦勞されているようだが、丁度新年度予算編成期になっていて、提出期限に迫られて当日出席出来なかった。

以上総会の模様を記し、御出席された方、又出席出来なかった会員の消息について、私の感を書きました旧知の方に動静を知って頂ければ幸と幸いです。(工藤記)

織維化学第二回生同級会記

1月18・19日、織維化学第二回生の同級会が、出湯の街、別所温泉、想い出の玉屋旅館で、恩師会田先生をお迎えして盛大に開催された。

この日集いし友は、飯島南海夫君(信大教育学部勤務)、小林孝平君(長野県農業試験場勤務)、小出直人君(静大教育学部勤務)、熊田啓代志君(東海合織紡績KK勤務)、萩原秀治君(有限会社萩原商店取締役)、並びに小生(長野県織維工業試験場勤務)の6人であった。



地元在住の萩原、小林、窪田の3名で、昨秋より、この計画を進めてきたのであるが、諸般の都合により、延引を重ね、今回、開催の運びになった次第である。当初、14人の出席が予定されていたが、勤務の都合、その他、万やむをえざる事情により、僅か6人となってしまったことは、聊か残念なことであった。

会は地元幹事代表の萩原君より、再会の喜びに溢れる感激の挨拶の後、会田先生より祝辞と激励の言葉を賜り、早速、酒宴にはいる。時は正に午後7時。

思えば、われら第2回生34人が学窓を巣立ったのは、大東亜戦争、酣わたりし昭和18年10月であった。(学徒戦事動員令により半年繰上げ卒業。)就職もそこそこ、大多数の級友は大陸に、南方に、戦線の砲煙銃火に身を曝し、そして7人の友をわれわれは失った。終戦、思想と経済の混乱期をへて日本は見事に復興されたのである。思えば長い、そして波乱万丈の20年間であった。

酒は呑むほどに、酔うほどに、亡き級友を語り、又各位各様の体験談、経営論あり、教育論あり、夫々傾聴に値するものばかり。やがて、美妓4人の光来ともなれば、座はますます賑かになってくる若き日、常田ヶ丘で口吟みし歌曲を歌い

興を増せば、三昧にのっての民謡、都々逸。就中、萩原社長の年期と資本のかかった民謡手踊りは万座の笑いをまきおこす。会田先生も興にのれば、お得意の会津白虎隊を高吟される。先生の昔に変わぬエネルギーな音聲は、まさに壯者を凌ぐものあり。歓声の声しきり。銚子、ビール壺の林立ともなれば、戦中派は、やはり軍歌がお好き、美妓を左右に侍らせて軍歌の斉唱ともなる。会の終り、就寝に及びしは12時をオーバー、よくぞ呑み、又語ったものである。

翌日は、当初の計画に基づき、戦没せる下村徹夫兄、塩塚良二兄、辻本甚作兄、中島守雄兄、中沢正司兄、山本正也兄、小木曾俊夫兄、並びに、不幸、病魔にたおれたる竹内明人兄の霊やすかれと、別所北向観音堂において八級友の法要を営む。安楽寺住職半田孝順師の読教を聞きつつ、冥日すれば八君の若き日の元氣な姿や思い出が勞霧として胸中によみがえってくる。在天の靈よ、どうぞ、やすらかに永遠に眠ってくれ。

法要の後、会田先生をお見送りし、化二同級会は盛大にその幕をじた。そして、われわれは、又の再会を約して帰途についたのである。

都合により参加出来なかった同級の諸氏よ、次回には、何んとしても一堂に会し青春を過し、古巣の上に翼を休めようではないか。(窪田作永記)

蚕緑会短信

蚕緑会の皆さん、夫々の分野で新活動の事と存じます。去る1月25日群馬県伊香保温泉で開催致しました蚕緑会総会の模様を出席出来なかった方々のためにお知らせ申し上げます。出席者は群馬県在住の長井(県蚕糸課)桑原(群馬蚕糸KK)倉沢(日本レーヨン)島田(片倉)湯原(千曲社)埼玉県より吉沢(埼玉織維)のレギュラー6名、東京より丸山君(旧姓依田丸美屋)が遠路はるばる出席されました。伊香保温泉「かのう屋旅館」に散々伍々集合した前記7名は懐古談を花を咲かせたり、又昨年西ドイツ、ケルン市で開かれたフォトキナ視察を兼ねヨーロッパ各国を漫歩された時の赤ゲット?振りと発揮した丸山君の話に抱腹大笑宴会ともなれば伊香保温泉の美妓の酌で夫々珍芸披露に星霜15年の歴史かにじみ出ており、クラスメートの温味がひしひしと感じられました。その後囲碁にマージャンに天狗の鼻を伸ばしたり折られたりして深更に及びも尽きざるものがありました。明けて26日七ぼしの別れを惜んで一献を飲み交はし次回を約して散会しました。次回は3月下旬頃高崎市にて開催致しますが何れ日時、場所は追ってお知らせ致します。東京、長野からは巨振り出来ますので多数の皆さんの御出席を期待しています。

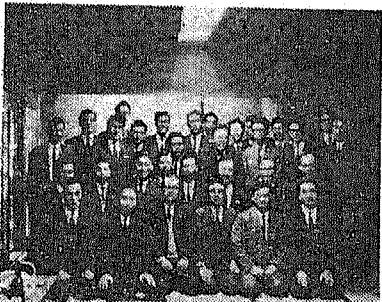
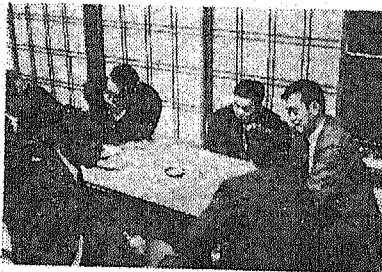
湯原記

大阪織化会発足の記

林 利金 (学化2)

1月14日、大阪市又はその周辺に勤務する、繊維化学科卒業生が、千曲会本部より北条舒正理事(繊維化学科第1回卒)を招いて、第1回の同窓会を開いた。

(大阪における化学科卒業生の会は1回卒の西田謙三氏の世話で昭和24年頃より1回生を中心として始められ、坂口安弘金子隆一両君が世話係に加わって毎年1~2回20名内外の参加で行われて来た。本会は勿論千曲会の分派を目的とするものではなく化学卒業生だけでも1層の団結を千曲会に新しさを吹き込み全体としてまとまるための1手段である。)



場所は大阪南へ宗衛門町いろはで、集った人は、在阪同窓生60名中30名であった。

北条先生より、母校の様子や、他地区の同窓生の方々の活躍など、備報告続きで参会者の互選により、会長として第1回卒の日本接着剤工業代表取締役江口晴雄氏を選出された。そして会の名称を仮称大阪織化会とし、皆でお互に鍋をかこみ、少い酒ながら、自己紹介やら会社の宣伝やらで、楽しい一時をすごした。

席上、江口会長より、この会は昭和17年卒を第1回とする、若さにあふれる会である。この会の結成を機会に、お互に切磋琢磨し、繊維化学工業やその他の分野で頑張ろうではないか。その為にこの会は顔を見せて飲む会ではなく、種々の研究会や講演会を開き私達の知識の向上はもとより、社会学の勉強にも心がけお互の親睦をはかって行きたいと、会の運営について方針を述べられた。会長の指名に依り、副会長中西知三、幹事笠井利之

(23年卒)、坂口安弘(26年)、関口貞雄(29年)、金子隆一(31年)、遠藤正男(35年)、会計林利金(29年)の計7名が選ばれた。

始めて開かれた繊維化学科同窓会であったので、大いに話がはずみ、なごりつきなまま散会し、三々五々南の繁華街に消えて行った。

不参加の方々の返信にはこの会に対する期待と成功を祈る声が多く、近い日に新しい型の同窓会を開く予定である。

本日の出席者は江口晴雄(化1)西田謙三(〃)山田信(〃)佐藤信和(〃)浅田進(化5)中西知三(〃)北沢 亨(〃7)大槻勝(〃8)坂口安弘(〃9)関口貞雄(学化2)林利金(〃2)矢野泰弘(〃3)金子隆一(〃4)三浦秀夫(〃4)菅原力(〃5)林貞男(〃5)森 雅広(〃5)小林敬明(〃6)小松好人(〃6)近藤真彦(〃7)平林正美(〃7)藤沢通夫(〃7)遠藤正男(〃8)石田保(〃8)高橋茂美(〃8)水野仲夫(〃8)桑田昌(〃10)小林忠弘(〃10)寺島英夫(〃10)田中秀雄(〃10)

九州北部の会員に会うの記

町田 博

今頃この記事を書くのは大変間が抜けてはいるが、最近福岡の鈴木氏からその時の記念写真を頂いたので、御世話下さったそれぞれの支会の各位に御礼を中上げる積りで書いた次第である。

全国大学農場協議会秋季大会と大学農場教育研究集会(文部省主催)の二つの会合が昨年10月22、3日に九州大学農学部で開かれた。この集会は開催地大学附属農場の実習教育施設の実態を視察するとともに大学における実習教育および農場研究のあり方を研究討議するのである。

この会合に私は田中茂光農場主事を同伴して出席したが、九州に渡るは初めてである。折角の機会であるので、その帰途彼地の同窓生諸氏にお会いし、且つは天下に知られる観光地長崎、雲仙、熊本、阿蘇、別府等の観光を兼ねた日程を立てて上田を20日に発った。福岡3泊、長崎1泊、熊本1泊、別府1泊のせわしい日程である。千曲会事務局から北九州支会と熊本支会への連絡事項をたずさえたので各支会長には通知してもらっておりたのである。

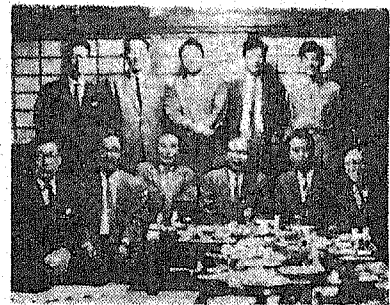
福岡では小山支会長を県庁に、そして吾々の室に勤務していた満木喜栄子嬢の新家庭鈴木昭(蚕学5)氏夫妻を社宅に訪れることは予定して、それは実現できたが、さらに図らずも小山支会長さんの計らいで、会議視察終了解散の23日夜、上原氏幹旋の通産局大濠寮に歓迎の席が

設けられ、予期以上の多くの同窓諸氏にお会いでき恐縮するとともに非常に嬉しかった。参集された各位は

小山 祖光(糸 16) 県庁農政部参事
川村雄二郎(蚕 37) 県庁蚕糸課
熊谷省次郎(蚕 38) 県庁農政課
福島綱治郎(糸 12) 繭検定所長
永島 覚(糸 17) 繭検定所
上原 真徳(蚕 26) 福岡通産局
鈴木 昭(学蚕5) 日星産業
県 和一(学蚕7) 九大農・大学院

北九州支会は会員数は90名内外であるが、福岡、長崎、佐賀、大分の4県に亘る地域的マンモス支会で(北奥支会も同様)、支会総会をやっても福岡県外の諸氏は殆んど顔をみせず、支会のまとめに頭をいためているとのことであつたので名簿上会員30余名の大分県を1支会として分家独立させたらの意見を申上げたそして別府でお会いした河合式太郎、小野光の両氏にも新支会設定の労をとるよう申上げたところである。

この支会は母校と遠距離にあり人的往来が少なく、千曲会総会にもその代議員の出席があまり見られないだけに私の話



した母校および上田の近況には大変懐しさを感じられた様子であった。吾々も各位の意気軒昂の姿に頼母しさを覚え、また小山さんの博多節、熊谷氏の黒田節の正調等各位の芸、談話等により彼地の風物を満喫してお別れしたのであるが、安田圭二郎、江崎勇雄、福田英彦の諸氏にも会いたかった。

翌朝博多を発って、東洋のナポリと賞された近世日本文化の門戸となった長崎に向った。途中の佐賀県にはお会いして近況を知りたい西川晋、河合寿一郎、牛草榮喜、斎藤章の諸氏がおおり、長崎県には鹿間茂行氏がおられるのを知っていたがお会いする時間がとれないまま連絡もせず失礼してきたことをここでお詫びしておきたい。

翌25日は県営観光バスで雲仙、島原、三角を経て熊本に到着、最終の市内観光バスに間に合せて熊本城と水前寺公園をみて宿泊所に着くと、すでに深迫明支会長(蚕16・県蚕糸課長)さんと、中岡保

男(農1・県蚕試)氏が来ていて下され間もなく岩尾今生(蚕31・市立中学)氏田代毅(糸27・鐘蚕菊地工場工務課長)氏がみえ、食事を共にしながら母校、恩師、会員等の近況動静、蚕糸業の動向等を話し合い、またその地の風物について話もお聞きして有意気な数時間を過した殊に課長さんの発案による九州産繭額の大半を占める県としての蚕糸試験研究機関の改新策に敬服した。各位にはわざわざ宿まで出向いて歓迎の席を設けて頂いて恐縮した。林田義雄(糸23・県庁)原田正彬(糸23・写真材料店自営)の両氏が都合で来られない由で、お会いできなかったのは残念だった。

翌26日の朝中岡氏から駅で古くからの名産である珍品を頂いて熊本に別れを告げ、悠久の昔か霊火を燃し続けると云う複式火山の典型阿蘇山に登り、その雄大な眺めにしばし人界を忘れ、国際的温泉郷別府に着いたのは15時前、早速に例の市内観光バスで猿で有名な高崎山、地獄めぐりを済ませて宿に到着した18時頃だった。

別府には河合式太郎氏(糸23)が旅館(白水館)を自営していることを名簿で知っていたので、各宿泊地の中別府だけは宿の予約なしで上田を出発したのであるが、同氏には心よく迎えて頂いて有難かった。食後同氏の連絡で小野光氏(蚕26・統調事務所大分出張所長)が来られ前夜同様母校の近況や会員の動静等を話合った後、市内夜景見物に案内されたがさすがに観光客の多いのに驚いた。大分農試におる管の井村秀男氏(農1・大分農試)に連絡する時間さえないのは残念だった。翌朝河合氏に慣習のテープで送られ、瀬戸内海随一の豪華観光船「すみれ」丸に乗船して九州の地を離れたのである。これで会議と観光と同窓生に会う多目的の旅を終った。旅行中御世話下さった各位に改めて御礼申上げる次第である。

謹啓 故林貞三葬儀に際しましてはご懇篤なるご弔慰を賜わり且つ公私ともご多忙中のところ遠路わざわざご会葬下さいましてご鄭重なるご厚志を賜わりまことに有難く厚く御礼申し上げます。

早速お伺いの上御礼申し上げます。早急お伺いの上御礼申し上げます。

昭和39年 1月 28日

妻 林 志 げ を
男 林 幹 雄
外 親 戚 一 同

本 会 記 事

前学部長本会顧問林貞三先生ご逝去
母校前学部長、本会顧問林貞三先生には昨冬来ご病気で療養中のところ遂に1月23日午後7時ご逝去されました。誠に哀悼の極み謹んでご冥福を祈り申し上げます。なお葬儀委員長には小泉学部長、副委員長に萩原理事長がなられ1月25日委員参集し諸打合せをした。1月28日午後2時から日本基督教団上田新参町教会において、告別式が行われ各界の名士多数ご会葬敬請に行われた。

会報編集委員会開催

2月8日会報編集委員会を開催。出席者は小林尚一、香山清和、大屋正尚、大工原建、小山定、小林勝、の各氏委員で協議事項は①1昨年の総会で会報は年10回発刊し2回は休刊することに決定しているの2月号は休刊とすること。②3月号は各支会より寄稿も多いので増頁すること。大学院設置に伴うニュースはトップとし小泉学部長の寄稿を依頼すること。③本会運営上協賛広告を分担して募集すること。

財団法人上田繊維科学振興会理事会開催

2月18日理事会を開催。出席者は柳沢延房、北条舒正、小泉清明、田口亮平、関博夫、野口新太郎、本田源作、高木三治、中村六男、香山清和、の各氏理事で次の事項を協議した。①講演会開催については学部の主催によって4月下旬繊維の将来と経済事情について講演会を開催の予定で講師を交渉する。②39年度研究助成金交付希望者募集については本会助成規程により千曲会報に募集広告をすること、および各支会長に連絡して募集すること。特に若い層の研究応募を期待する。

熊田喜代志氏(織化2回)

技術士試験に合格

東海レイヨン株式会社勤務の熊田喜代志氏は38年度技術士国家試験に合格し、繊維部門の技術士となる資格を授与された。

千曲会費完納者氏名

本会会費納入通算40回を完納し、会費免除となった会員は次のとおりである。本会向上発展のためご協力を頂いたことを深謝いたします。

- 古川 俊之(蚕10回)(愛知支会)
- 原 茂(蚕13回)(愛知支会)
- 今吉 築郎(紡5回)(愛知支会)

会員名簿に協賛広告申込初まる

今秋発行予定の会員名簿に関係業界の協賛広告を募集中心であるが、長野いすず自動車取締役宮沢芳雄氏(蚕30回卒)は1月16日来会1頁大の協賛広告を申込みました。陸統と広告応募を期待いたします

母 校 ニ ュ ー ス

学部正門警務室移設工事初まる

学部建造物の新設拡充に伴って、従来の正門の位置が引込んでいるのでこれを前進させ中員も従来4米であったものを10米と大きくし両側に花壇を設け正門附近約600平方メートルを簡易舗装する工事は宮下組施工により3月中旬竣工予定である。完成の上は大学院設置の学部にもふさわしい正門となる。

高分子研に赤外線吸収スペクトル

昨年来新設の高分子研究所に赤外線吸収スペクトルが入った。赤外線吸収スペクトルは、化学関係の大学、研究所、工場等には既に殆どどの所でも取られて居り別に取立てて置く程のものではないが、本学部に入ったものは特殊な附属器によって高分子化合物の凝集機構を研究するのに便利に作られている。これによって、工業化学、繊維工学関係者は研究に一段と力が加わるものと期待され、各科から広く使用することが望まれている。

なお工学部(長野)には既に以前から取入れられて居り研究に活躍している。

職員スキー講習会開催

教職員スキー同好会の主催するスキー講習会が好天気の下菅平スキー場に於て1月9、10、11の3日間にわたって行われた。講師4人(早津、細野、早川、今井(オ学部)の各先生を迎えて、学生の参加者を含めた教職員60人はA、B、C、D、4組に別れて、その技術のみなぎをかけた。ゲレンデは雪が少なかつたが、それぞれ皆大いに得る所があり、1日の負傷者もなく終わったのはさいわいであった。

剣岳遭難救助報告

私達信州大学山岳会上田山岳部は冬山台宿として剣岳、小窓屋根を目指した。参加人員は8名(森田、永島、井出、小宮山、小宮、岡村、須藤、石川)登山中は比較的好天候に恵まれ、CI、CIIを設営し、昨年12月29日部員2名が剣岳登頂に成功した。31日、CIより下山中、石川悦子さんはスリッパし、550米下の池の谷に転落した。その日はザイル等の不足のため望しく終った。翌1月1日近くにいた九州電天山岳会員の応援を得て救助を始め、11時30分石川さんを発見ザイル確保にて無事救出した。生還出来た事は石川さんの沈着なる行動、九電パーティーの協力、天候、その他多くの事が我々に幸いした。石川さんの負傷状態は頭部裂傷(長さ8cm、深さ5cm)脳内出血、左足ネンザ、足指凍傷等であったが現在は全快している。皆様へ御迷惑をおかけした事を部員一同、深くお詫びすると同時にこれを機会に我々はあらゆる事に反省、自己批判をくり返し、萎縮する事なく安全かつ慎重により高度な山行を目指し覚悟しております。詳しくは三月上旬に発行の山岳部報に掲載しますのでごらん下さい。 山岳部

火災復興資金募集締切近づく

母校火災復興資金募集については第24回通常総会のさい募金メ切期日を来る3月末日と決定しましたので、申し込をお忘れの方は次の募金要項と支会別募金申し込納入状況をご高覧の上奮ってお申込下さるようお願いいたします。

募 金 要 項

募 金 目 標 額 5,800,000円

復 興 資 金 として 5,000,000円
母校へ提供する金額

抛 出 額 1口 金 1,000円 1口以上

申 込 締 切 昭和39年3月末

千 曲 会 員 各 位

母校火災復興資金募集実行委員長

巢 山 喜 吉

社団法人千曲会理事長

荻 原 清 治

火 災 復 興 資 金 完 納 者 氏 名

5,000円 和田 晋 (糸12・上小)

3,000円 山部金三郎 (蚕30・岐阜) 倉島紀富 (紡22・愛知)

2,000円 宮川繁治 (蚕13・福井) 宮城時久 (蚕23・京滋)
藤森敏雄 (紡24・愛知) 宮入 保 (蚕20・更埴)
坂口静次 (糸28・北九州)

1,000円 笠原昭重 (学化5・愛知) 原 茂 (蚕13・愛知)
山本繁 (学糸9・愛知) 加藤隆正 (紡21・愛知)
花岡清 (学化9・愛知) 松林元一 (蚕28・兵庫)
林 久男 (農3・上小) 荻原行雄 (糸20・群馬)
山本康博 (学紡10・香川) 大日方勝利 (蚕別1諏訪)
森戸 晋 (蚕15・群馬) 小柳源一 (蚕24・群馬)
須藤巻代 (教5・群馬) 矢野信友 (学蚕6・北佐久)
岡本 功 (学化6・東京) 小山清夫 (学糸10・東京)
岩根 謙 (蚕11・群馬)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤 第一ビル 四階
東京 (591) - 0764・0765

弁理士 浜 香 三
弁護士 中 猪 之 助

支会別母校火災復興資金申込納入調 (39.2.19現在)

支会名	申込	申込金額	達成	納入	納入金額	達成率	目標額
	人員		率			人員	
北海道	4	7,000	25.0	4	6,000	21.4	2,8000
北 奥	22	48,000	88.9	21	46,000	85.2	54,000
山 形	18	42,000	93.3	17	38,000	84.4	45,000
宮 城	26	71,000	144.9	26	71,000	144.9	49,000
福 島	38	71,700	66.4	38	71,000	66.4	108,000
群 馬	13	19,000	8.8	12	17,000	7.8	217,000
埼 玉	45	74,400	41.6	45	74,400	41.6	178,000
栃 木	15	46,000	88.5	14	36,000	69.2	52,000
茨 城	39	66,200	75.2	39	65,200	74.1	88,000
千 葉	22	38,000	60.3	21	36,500	57.9	63,000
東 京	197	331,500	55.7	193	318,500	53.5	595,000
神奈川	70	158,000	82.3	67	149,000	77.6	192,000
山 梨	17	21,000	33.3	17	21,000	33.3	63,000
越 佐	13	19,000	21.8	13	19,000	21.8	87,000
石 川	11	22,000	66.7	10	20,000	60.6	33,000
福 井	6	13,000	46.4	6	13,000	46.4	28,000
富 山	22	35,000	50.0	21	33,000	47.1	70,000
北佐久	13	25,000	17.0	12	22,000	15.0	147,000
南佐久	5	8,000	15.7	5	8,000	15.7	51,000
上 小	133	292,600	50.4	120	273,000	47.0	581,000
学 内	49	411,000	100.0	52	369,674	90.0	411,000
旧職員	4	13,000		4	13,000		
更 埴	19	45,700	28.0	19	45,700	28.0	163,000
北 信	38	109,000	44.9	37	99,000	40.7	243,000
飯 高	2	2,000	2.4	2	2,000	2.4	84,000
安 筑	80	136,000	75.6	80	136,000	75.6	180,000
竜 川	16	26,500	29.8	12	17,500	19.7	89,000
諏 訪	26	112,000	72.7	18	72,500	47.1	154,000
岐 阜	18	54,000	47.4	17	53,000	46.5	114,000
静 岡	20	36,000	41.3	20	36,000	41.3	87,000
三 重	52	109,000	103.8	51	107,000	101.9	105,000
愛 知	126	257,000	76.9	124	249,000	74.6	334,000
近 畿	36	62,000	26.1	34	60,000	25.2	238,000
京 滋	51	106,000	112.8	49	103,000	109.6	94,000
三 丹	32	66,000	78.6	24	47,000	56.0	84,000
兵 庫	45	98,000	85.2	43	97,000	84.3	115,000
山 陽	39	95,000	50.3	39	95,000	50.3	189,000
山 陰	10	10,000	22.2	10	7,000	22.2	45,000
徳 島	16	30,000	100.0	16	30,000	100.0	30,000
香 川	3	5,000	35.7	3	5,000	35.7	14,000
高 知	9	9,000	75.0	9	9,000	75.0	12,000
愛 媛	9	27,000	44.6	9	27,000	44.6	56,000
北九州	17	29,000	23.4	16	26,000	21.0	124,000
熊 本	12	20,000	45.5	12	20,000	45.5	44,000
宮 崎	6	14,000	53.8	5	13,000	50.0	26,000
鹿 児 島	9	16,000	53.3	9	16,000	53.3	30,000
合 計	1,473	3,306,600	57.0	1,415	3,092,674	53.3	5,800,000

会 員 動 静

西島 久文 学紡1 近 畿 大日本紡績KK第1紡績課
(大阪市東区安土町2の30)

小鮒 啓助 紡 15 安 筑 松本保健所総務課長(事)
(松本市)

田中 甲二 化 6 上 小 上小地方事務所商工建築課
(技)(上田市)

清水比呂夫 蚕 28 北 信 長野県農政部畜産経営係長
(技)(長野市)

清水 好 農 1 北 信 長野県農政部農政課構造改善
副主幹(技)(長野市)

田中 実 学糸1 北 信 長野県農政部農政課構造改善
室(技)(長野市)

中沢 一 学糸5 北 信 長野県会計局会計課決算係
(事)(長野市)

丸山 依純 蚕別1 安 築 南安曇郡梓川村1333

平林 孝方 紡 17 東 京 協和纖維工業KK(東京都千
代田区大手町1.4大手町ビル)

牧野 通夫 糸 34 福 島 片倉工業KK平工場(福島県
平市三倉8番地)

関口 進 紡 28 近 畿 日東紡績KK綿紡績課(大阪
市東区高麗橋5の1)

八木 義博 学化11 山 陽 日本エクスラン工業KK本社
大阪府守口市市外島2東洋紡自
啓寮

白木 嘉人 学糸11 東 京 吉忠KK東京支店(東京都中
央区日本橋箱崎町4の28)

松崎 滋 糸 29 神奈川 市田産業(株)横浜支店生糸部
(横浜市中区山下町207)

尾山 西徳 学紡2 近 畿 三菱レイヨン(株)織維加工部
(大阪市北区中之島2ノ22)

清水 昌 学化10 富 山 三菱アセテート(株)富山工場
(富山市海岸通り3)

原口惣一郎 糸 25 福 井 福井県南越事務所産観光課
長(武生市蓬萊町)

西原 美登 糸 24 福 井 福井県販売講習農業協同組合
連合会印刷工場長(福井市大
手町)

坪根 克彦 糸 20 北九州 大分県社会福祉事務所(大分
県三重町)

小野 光 蚕 26 北九州 農林省大分統計調査事務所大
分出張所(大分市天神町1274)

小林 憲 紡 19 近 畿 兼松羊毛工学(株)本社工務部
(大阪市東区深路5の33)

山本 繁 学糸9 愛 知 自営 山本電気商会 名古屋
市中川区柳堀町2の45

犬童 卓也 学化11 愛 知 興和紡績矢田川工場 名古屋
市北区辻町9の1

小野 裕司 学化10 愛 知 日本レイヨン(株)岡崎工場(岡
崎市日名町353)

宮尾 行雄 糸 22 愛 知 東洋ナイロン燃糸加工(株)東海
工場長 愛知県中島郡平和町
三宅

小林 祥愛 紡 27 東 京 東洋ナイロン燃糸加工(株)(東
京都中央区日本橋室町三井ビ
ル西3号館)

上田繊維科学振興会研究助成金交付希望者募集

母校50周年記念事業として発足した上田繊維科学振興会は振興会寄附行為第4条第1項に基づいて研究助成金交付希望者を次のとおり募集する。

- 1, 応募者は4月15日までに振興会理事長あて、助成金交付申請書に研究課題、目的、計画概要、研究経費を記載して提出しなければならない。
- 2, 応募者は個人または協同研究としある程度の成果を得ているものとする。
- 3, 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する
- 4, 研究助成金は5月末までに交付する。
- 5, 研究の助成をうけたものは助成金の交付決定してから1年を経過し6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。
- 6, 助成金成果の概要は千曲会誌上に公表する。
- 7, 申請書様式は本会あて申込み送付する。特に学部外の若い層の研究者もさかんに応募されたい。

昭和39年2月20日

財団法人上田繊維科学振興会

千曲会員名簿発行のお知らせ

会員名簿を今秋発行することについては過般の定期総会において決定されました。これにつき各支会から順次所属会員の勤務先及び住所報告等のご協力を得ていますが会員各位も最寄りの会員の動静に変化があった場合は正確にお知らせ下さい。尚市町村名の変更した場合も必ずご通知願います。

原稿は4月末までに印刷所に廻しますが、ご協力により正確な名簿といたしたい考えです。なお名簿発行要領は次のとおりです。

- 1, 員 数 500頁 B6版 会員約 5,000名
- 1, 発行予定月日 本年9月末頃
- 1, 頒布価格 大体400円前後の予定

以上事情ご了承の上ご協力の程をお願いいたします。

昭和39年2月

社団法人 千曲会動静部



皆様の百貨店

上田・中央



編集室より

母校前学部長、元理事長、本会顧問林貞三先生にはご病氣療養中の処1月23日ご逝去されました。多年母校発展にご尽瘁いたされ、本会の育成向上にご尽力下さった多大のご功績を感謝申し上げ謹んでご冥福をお祈りいたします。

本春より母校に大学院(修士課程)が設置されたことは学部発展のため慶賀にたえない。大学院修士課程の設置について、特に小泉学部長のご寄稿を得て本誌を飾ることにした。各支会よりも活躍している便りを寄せられ本会向上のため深謝します。

編集委員 小林尚一、香山清和、大屋正尚、吉平福紀
窪田 衛、大工原建、小山 定、滝沢達夫
小林 勝、白井要範